

令和7年度全国学力・学習状況調査
「教科に関する調査」平均正答率等一覧（公立）

小学校

(%)

	十和田市	青森県	全国	全国比
国語	70	67	66.8	105
算数	61	57	58.0	105
理科	63	59	57.1	110

中学校

(%)

	十和田市	青森県	全国	全国比
国語	55	54	54.3	101
数学	46	46	48.3	95

(IRTスコア)

理科	508	507	503	101
----	-----	-----	-----	-----

※全国（公立）の平均正答率を100としたときの十和田市の割合を「全国比」として表している。

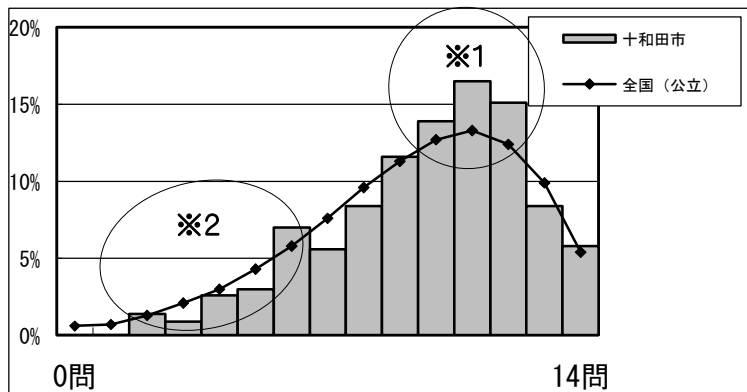
※IRTスコアとは、項目反応理論（IRT）に基づいて算出されたスコアのこと、平均スコアを500として表示されている。項目反応理論（IRT）とは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

小学校

令和7年度全国学力・学習状況調査 「教科に関する調査」データに基づく分析

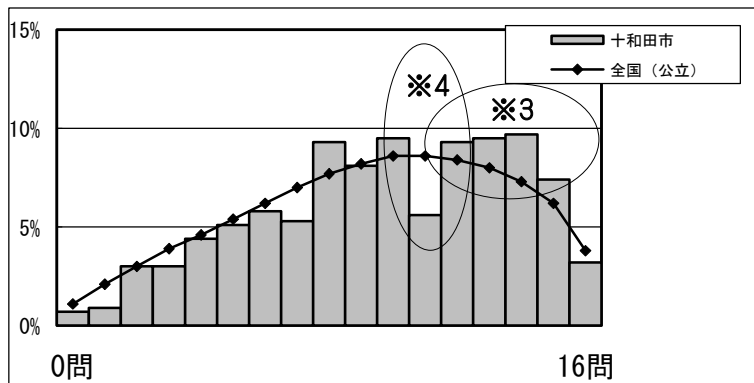
正答数分布グラフ（ヒストグラム） — 正答数の分布状況を示すグラフ

国語



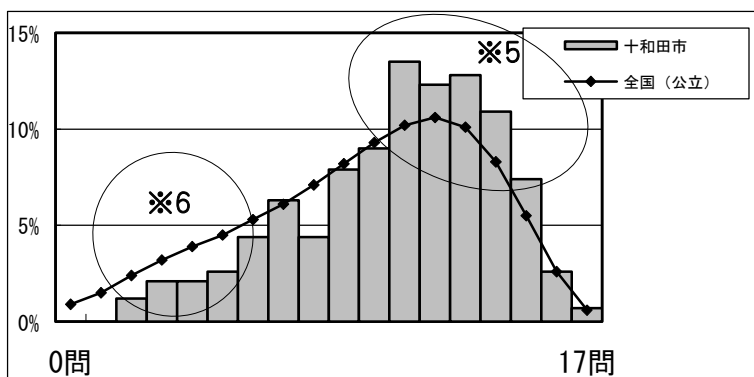
- ※1 国語においては、10問以上正答している児童の割合が全国よりも高い。
- ※2 正答数が5問以下の児童は全国よりも低い。

算数



- ※3 算数においては、12問以上正答している児童の割合が全国よりも高い。
- ※4 11問を境に2極化している。

理科



- ※5 理科においては、11問以上正答している児童の割合が全国よりも高い。
- ※6 正答数が6問以下の児童は全国よりも低い。

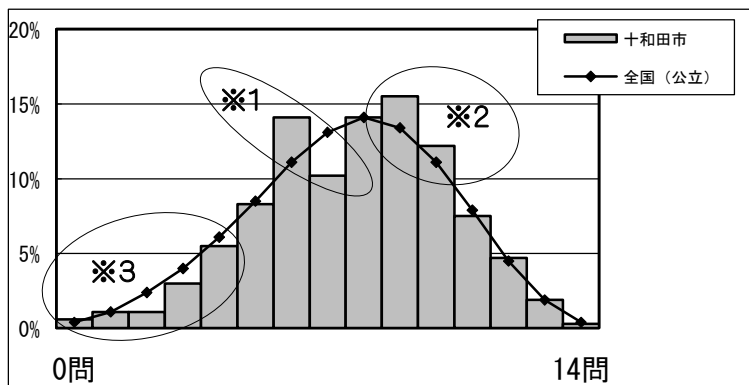
中学校

令和7年度全国学力・学習状況調査 「教科に関する調査」データに基づく分析

正答数（理科はIRTバンド）の分布状況を示すグラフ

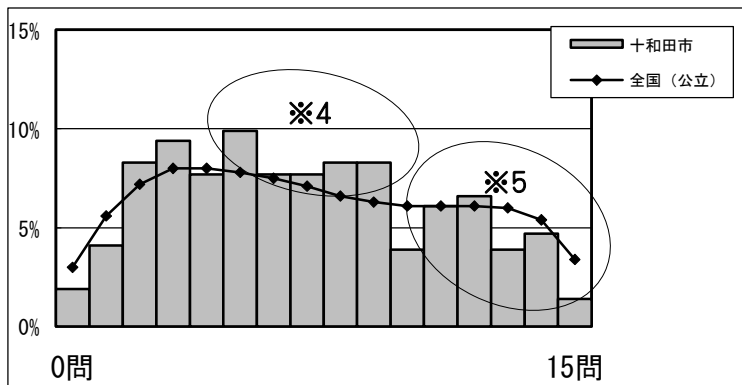
IRTバンドとは、個々の結果を5段階で示したもの

国語



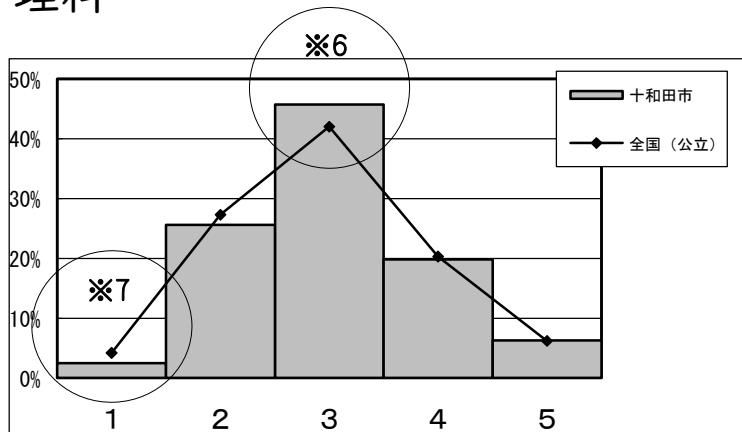
- ※1 国語においては、7問と8問の正答数を合計すると同じ割合になる。
- ※2 9～10問正答している生徒の割合が全国よりも高い。
- ※3 正答数が5問以下の生徒は全国よりも低い。

数学



- ※4 数学においては、5～9問以上正答している生徒の割合が全国よりも高い。
- ※5 10問以上正答している生徒の割合が全国よりも低い。

理科



- ※6 理科においては、IRTバンド3の生徒の割合が全国よりも高い。
- ※7 IRTバンド1の生徒の割合が全国よりも低い。

※IRTバンド3の生徒は、問題の難易度が「3」の問題をおおよそ（約80%の確率で）正答することができる力があると推定される。